

令和6年9月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	議席 番号	氏名	稲葉晃司 議員	1 / 1
発言項目		要 旨		答弁者
1	これからの富士宮市の教育環境について問う	<p>(1) 富士宮市立学校の適正規模・適正配置に関する基本方針について、以下伺う。</p> <p>① 「はじめに」において、「主体的・対話的で深い学び」の実現が困難になる可能性があります。」とあるが、そもそも少子化問題は以前から予想されていたことであって社会のトレンドに学習指導要領が合っていないように思う。既に富士宮市内の過小規模校は、「主体的・対話的で深い学び」の実現が困難である状況ではないのか。市当局の見解はいかがか。</p> <p>② 望ましい学校の規模について、「小中学校共にクラス替えのできる1学年2学級以上（35人学級編制）」と望ましい学校の配置について、「安全な通学手段を確保することを前提に、地理的条件に加え、社会的な成り立ちによる生活圏域に配慮しつつ、全市的なバランスを考慮した配置とします。」とあり、適正化の方針として、特に複式学級については可能な限り解消するよう努めるとあるが、解消の手段としてどのような手法が考えられるのか。また、適正化の取組として、「児童生徒や保護者、地域住民等に対し、児童生徒数の推移や基本方針の内容等を説明する場を設け、学校の適正化について丁寧な説明を行い、十分に理解を得られるように努めます。」とあるがそれらの取組はどのようにして行われるのか。</p> <p>③ 配慮する事項について。</p> <p>ア 「①一定規模の人数の確保 地理的要因や地域の実情等を踏まえ、児童生徒数の減少により望ましい規模を確保することが困難であると認められる場合において、1学級当たりの人数について、教育活動を効果的に行うことができる人数、利他性や協働性など人との関係づくりを学べる人数及び多様な考えを知ることができる一定の規模の人数を確保するような施策を検討します。」とあるが、具体的な策は何か。</p> <p>イ 「②様々な手法の検討 通学区域の変更や学校の統合、小規模特認校及び小中一貫校の導入等といった様々な手法を検討します。」とあるが少子化が加速している最中、そのスケジューリングをどのように考えているのか。</p> <p>ウ 「③地域への配慮 学校は地域と結びついており、地域コミュニティの核としての役割を担っていることから、地域とのつながりに充分配慮しながら適正化を進めます。」とあるがその手法はいかがか。</p> <p>④ 学校の望ましい教育環境に関する保護者懇談会の概要資料では、建設的な意見や具体的な提案など参考になる意見が多くみられた。これらをどのように参考にしていくのかについて伺う。</p>		市長 副市長 教育長 関係部長